

清松総合鐵工(株)

# 「世のため、人のため、そして自己のため」

## 3月北海道社員旅行で月初朝礼を実演

人材確保の取り組みなど各メディアで取り上げられ話題となっている清松総合鐵工(株)(清松芳夫代表取締役社長、本社:宇佐市尾永井470番地1)の北海道社員旅行が3月28日から3日間の日程であり、今回はフィリピンからの研修社員(技能実習生)も参加し、社員全員で研修を行った。同社前をハイタッチから始まってバスに乗り。航空機にて福岡空港から北海道新千歳空港へ。全行程食事も含めて全て会社負担での社員旅行であった。

まだ雪の残る、さっぽろ羊ヶ丘展望台や札幌時計台、さっぽろ雪まつり資料館、北海道開発局、札幌市役所、サッポロビール工場などを見学し、昭和22年創業の超老舗の大型ファブ北榮興業(株)(高田知明代表取締役社長、本社:札幌市北区北二十条西7丁目1番1号)の工場見学も行った。

企業訪問時には、乞われて清松社長が北榮工業(株)全社員に向けて「よっしいキヨマツのちょっとダケいい話」と題した講話も行った。その講話では、まず清松総合鐵工(株)の普段行っている朝礼を再現し、朝から全社員のテンションを高め士気を上げる「ハイタッチ運動」、点呼を経て、仕事上や今回の研修で失敗談を発表する「ええじゃないか運動」、同僚に対する謝意を



〈研修旅行の記念撮影〉



〈北榮興業の現場見学〉

述べる「イイネ運動」を実演して、研修先の北榮興業(株)に感謝の気持ちを込め全員で「イイネ!」と声を揃えた。

講話では各運動についての解説も行い、朝礼の席で「失敗や間違ったこと」を発表すれば各

めないという「ええじゃないか運動」は、失敗を恐れない心を養っていることを紹介。「イイネ運動」は、当番制で、誰かが誰かの良い点を探すということは、まずその人のことを知らなければならないし、しかも嫌いと思うとその人の「イイネ!」を見つけることが出来ないで、自然に好きにならざるを得なくなるという活動で、結果として社員同士がお互いに仲良くなる事が出来ると説明した。

さらに講話は、同社社訓の『世のため、人のため、そして自己のために』をテーマに話を続け、例えば「嵐の日にバス停に①老人(病弱)②親友(命の恩人)③理想の異性(初対面)―が待っている時に、自分が二人乗りの車で通りかかったとして、誰を乗せるか?」と質問。その意味は「①老人=世のため②親友=人のため③理想の異性=自己のため―を意味する」と解説し、我々では「常に自分の行動は『世のためか、人のためか、自己のためか』を問いかけながら仕事することを社訓としている」と紹介。続けて、一番良い方法は「②親友に乗車のカギを渡し、①老人を病院に送ってもらい、自分は③理想の異性と、嵐の中バス停で待つ―である」と話し、これなら「老人を助けることができ、親友には感謝され、理想の異性とも一緒にいられる」と説明。重ねて「我



〈工場研修〉

社の社是は、この例のような解決策があるのではないかと常に模索し続けることこそがテーマです」と熱く語った。

引き続き、九州の大分県について紹介。福沢諭吉の壺万円札菓子を全員に渡し、講話前とは人が変わったようになった社員たちと声を揃えて、好評の「イイネ!」で社長講話を閉めた。

同社は、ビルや工場等の建物の基盤となる鉄骨を造っている会社。平成30年は、同社悲願の30億円越えも果たし、平成最後から令和にはいよいよ35億のハワイに向け、同社始めて以来の大プロジェクトも控え、鉄骨総工費20億円弱の6,000tのプラント鉄骨を受注。また、毎月初めの社長講話付き朝礼には毎回多くのゲストが参加し好評を得ている。

### 北榮興業(株)社員に向け社長講話



〈講話する清松社長〉

清松総合鐵工株式会社

ここには

ゆめ

# 未来がある

# 35億売ってハワイに行こう!

私は建物の基盤となる鉄骨を造っている会社で人々の生命と財産を守ることが我々の使命だと考えています。昨年会社創立50周年を迎え、新社屋及び第5工場も完成し、九州内でもトップクラスの実績を上げています。そのような中でも、楽しく仕事をするこそが重要だと思っており、社員旅行は海外に行きまして。更に「35億売ってハワイに行こう!」を合言葉にして励んでいます。

国土交通大臣認定 H グレード

信頼のファブ AW検定認定工場

〒879-0304 大分県宇佐市大字尾永井470番地1

TEL.0978-32-2176(代) FAX.0978-32-0573

清松総合鐵工株式会社 Kiyomatsu Steel Structure co.,Ltd.

〈E-mail〉 info@kiss.ne.jp 〈ホームページ〉 http://www.kiss.ne.jp